

国際結婚した 夫婦のカタチ。

ランボさん、ビートンさん
両ご夫婦に聞く



- 男女共同参画社会づくり作文コンクール
- 男女共同参画とやま市民フェスティバル2018
- 小学生向け啓発冊子「自分らしく生きる」
- 家事ができる男性を目指す!「家事ダン」講座
- 男女共同参画推進センターからのお知らせ

他

国際結婚した夫婦のカタチ。

国際結婚したご夫婦の家族についての思いにスポットをあて、男女共同参画の視点からお話を伺いました。

OFFの時間を大切にします。



夫/ランボ ジョスランさん 妻/ランボ 乃理子さん 長女/ランボ 織愛(りら)ちゃん 次女/ランボ 眞愛(まえ)ちゃん

なれそめは?

妻: 私たち夫婦は、フランス領ポリネシア「タヒチ」のボラボラ島に、夫はパティシエ、私はホテルマンとして働いていたときに出会い、結婚しました。

富山で生活するきっかけは?

妻: 夫はフランスで生まれ、イタリア、デンマーク、カナダ、タヒチへと、私は千葉で生まれ、ニュージーランドからタヒチへと、いろんな国で仕事をしてきました。

結婚してから、仕事に追われる日々よりも、出産、子育てしやすい生活や仕事を考え、日本へ帰ろうと決めました。夫も賛同してくれて、また、私の両親が富山市出身だったこともあり、身近なこの地を選び2013年4月に住人になりました。そこから富山未来塾へ通い、開業のノウハウを学び、2013年11月にお店をオープンしました。



Shop data

マカロン・フランス菓子専門店
Monsieur J
(ムッシュ・ジー)
富山県富山市総曲輪4-10-9 1F
TEL: 076-461-5242

家庭内の言語は? 役割は?

妻: 娘(3歳と0歳)がいますが、夫は娘とフランス語で話し、私は娘と日本語で話しています。夫婦の会話は英語7割、フランス語3割です。

役割は、同じ仕事をしていることもあり、分担制でそれぞれ都合がつく方が家事をしています。子供の送り迎えも都合を合わせています。得意な方がする、という感じでしょうか。

子育ての考え方は?

夫: フランスでは大人の時間と子供の時間は、はっきりと分かれています。0歳でも部屋は別々で、そこは日本と全く違います。しかし、私が寝る時間帯のこともあり、今は0歳の娘と添い寝をしています。

国際結婚して価値観が変わったことは?

夫: いつもオープンマインドです。19歳から15年間いろんな国を渡っていますから、特にありません。国の違いを認めることです。

妻: 「違う」ということが前提で、「伝える」努力が必要です。暗黙の了解はないです。

国際結婚して周りの変化は?

夫: 私の家族が日本に興味を持ったこと。日本文化や日本食について調べています。

妻: 母がフランスのランボ家と会話をしたいので英会話教室に通っています。父はなぜか夫とジェスチャーで分かり合っています。日、祝日は両親に子供を預かってもらっています。



心を込めてつくられたマカロンやケーキ



ケーキをつくるジョスランさん

ジョスランさんから見た日本人は? フランスとの違いは?

夫: 日本人は建前があるので本心がわかりづらいです。日本人の気遣いは素晴らしいですが、その場で言うてほしいことはあります。フランス人はストレートなのでわかりやすいです。また、フランス人はオフの時間を大切にします。「始める時間は守る、終わる時間も守る」という言葉がありますが、仕事が終わったら自分の時間を大切に、子供との時間をもっとも大事にしたいです。仕事とプライベートのワークライフバランスがとても重要です。

将来の夢は?

夫: 家族の幸せです。2人の子供が、いろんな国で生きていく心の強さを持ち、国の違いを理解し、視野を広く、世界へ羽ばたく素晴らしい国際人になってほしいです。これからたくさんのことを学んでほしいです。

富山へ一言

夫: ルールの中で、海外の方や子供でも分かるサインやマークがあれば、もっと過ごしやすいまちになると思います。

編集委員の一言

取材中、会話の中に「ワークライフバランス」のワードが何度も出ていました。仕事と生活の心地よいバランスが充実感につながり、家族の幸せなカタチとなるのかな、と感じました。

秋日和の午後、外国語専門学校へ、ビートンさん・上島さん夫婦を訪ねました。

国際結婚した夫婦のカタチ。

春風のような ビートンさん・上島さん夫婦



夫/クリストファー・ビートンさん 妻/上島 恵さん

なれそめは?

妻:6年前、富山市内にあるアイルランドのパブの主催で開催されたアイルランド発祥のお祭り、セントパトリックスデーに参加していました。そこで友人がバッグを盗まれてしまい、その時、夫が犯人を追いかけたことが出会ったきっかけです。残念ながら、バッグを取り戻すことはできませんでしたが、その後、何度も遊びに行くきっかけになりました。
夫:私も、妻が英語をペラペラに話せることに驚きました。その後交際し、3ヵ月目で同棲、4年間の交際を経て結婚しました。今年で、丸2年目です。

富山へ来るきっかけは?

夫:2011年7月に県立小杉高校の英語の教師として来日したのがきっかけです。

富山で暮らすことにした理由は?

夫:私は富山が大好きです。水もおいしいし、立山登山もしました。立山以外に、白山や富士山にも登ったことがあります。残念ながら、妻は登山をしません。
妻:いずれどこか違う国にも住んでみたいと思っています。

富山の住みやすさは?

夫:富山の生活にも慣れました。バスケットを持ってピクニックに行ったり、呉羽山公園、環水公園や温泉にも行きました。

結婚して、相手がパートナーでよかったと思うことは?

妻:2人の間には、ギャップがありません。日本と英国は、文化的にも似ていますし、お互いが相手を尊敬しています。色々な記念日もあり、たくさんのイベントがあって楽しむことができます。

家庭における言語は?

夫:主に英語です。妻は、特別に英語を学んだわけではなく、中学・高校の英語教育を受けた程度とのことですが、実に堪能です。

家庭における役割、2人の家事分担は?

夫:ほぼ半分半分で、食事の支度は一緒にしています。特に休日は一緒に料理を作り、月1回は、多国籍料理を作っています。

生活習慣や価値観が違う場合の折合い・処理の仕方は?

妻:話し合っ分り合おうとするため、ケンカ等はありません。とにかく、とことん話し合います。分からない時は、色々な手段(身ぶり、手ぶり、絵を描くなど)を使い、分り合い、妥協点を見つけています。

お互いの両親や親戚とのつながりは?

妻:結婚のときは、お互いの両親からすぐにOKが出ました。反対されることもなく、順調に結婚することが出来ました。私の両親に挨拶したとき、夫は練習した日本語で結婚の挨拶してくれました。



ビートンさんご家族

夫:イングランドの母は、シャンパンを開けて喜んでくれました。週に1回は、フェイスタイムで、向こうの家族と話しています。
妻:夫の故郷のイングランドやオーストラリアの親戚宅にも遊びに行き、1週間くらい滞在しましたが、とても楽しかったです。



授業中のビートンさん



お仕事中の上島さん

相手の国の好きな食べ物や嫌いな食べ物は?

夫:お菓子の「甘金丹」、ます寿司、焼き肉、納豆(顎ひげに糸がついてしまうけど...)など。お茶も好きで、最近は水の味が分かるようになりました。
妻:私は、イギリス料理のハイ・ティーが好きです。嫌いな食べ物では、雉肉(きじにく)が苦手です。

富山に暮らしてみて良いことや困ったことは?

夫:私は日本とイングランドのどちらも運転免許を持っていません。自転車に乗っていますが、やはり車がないと不便です。でも、2人でよく歩いたり、自転車を利用するなどして、富山の美しい自然を満喫しています。でも、最初は富山の雪の量に驚きました。イングランドでは、1センチでも雪が降ると、仕事が休みになります。

接し方や家事で日本の男性と違う点は?

妻:海外の男性は、平等の精神が強いです。何に関してもフィフティ・フィフティ。私が言わなくても、家事も仕事もしてくれて、フォローしてくれる。「してあげた」というのが全くありません。

地域の人たちとの付き合いは?

妻:夫は地区の草むしりにも積極的に参加してくれて、地域の人たちに溶け込もうと努力してくれています。

経済面についての主導権は?

妻:私が主導権を握っています。(笑)

子供を育てるとしたら、一番気にかかっていることは?

夫:子供についてはまだ考えていません。でも、ペットの猫を飼っています。
妻:猫の名前は「ネコ」です。勿論、夫は「ネコ」の世話もしてくれますよ。

編集委員の一言

何事においても、お互いを尊重し、協力し合っているビートンさん・上島さん夫婦に感動しました。私の心の中でわだかまっていた国際結婚に対するイメージが、いい意味で崩れた瞬間でした。



男女共同参画社会づくり 作文コンクール

男女共同参画社会の実現に向けて意識を高めるため、市内の中学生を対象に男女共同参画に関する作文を募集しました。

今年度は285点の応募がありましたが、その中から入賞された方と最優秀受賞作品を紹介します。

最優秀賞

真の男女平等を目指して 片山学園中学校3年 吉越 碧衣

作品応募総数

285点

(敬称略・五十音順)

優秀賞

家族の協力

芝園中学校2年 岩本 唯里

本当の男女平等とは

東部中学校2年 花田 紗彩

女性が活躍できる社会を作るために

呉羽中学校3年 平田 一葉

「男女平等」を当たり前

堀川中学校2年 山岸 菜々

佳作

男女共同参画社会について

芝園中学校3年 岩倉 未波

女性が活躍できるような社会へ

東部中学校2年 近江 天音

男女平等の社会について思う

八尾中学校2年 岡本 璃子

女性が活躍できる社会について

杉原中学校3年 北田 江里

男女平等について

奥田中学校3年 染谷 美月

女性が輝くために

南部中学校3年 高田 桃加

一人一人の意識で変わる世の中

堀川中学校2年 長津 愛菜音

男女平等な世の中を目指して

片山学園中学校3年 鳴鹿 茉莉亜

男女共同参画社会づくりについて

八尾中学校3年 宮本 壮紳

自分らしく生きる

岩瀬中学校1年 吉池 千晴

最優秀賞

真の男女平等を目指して

片山学園中学校3年 吉越 碧衣



男女平等の実現とは何なのだろうか。

ニュースなどを見ていると、男女平等ということが話題になるときは男性による女性の差別ということが前提になっていることが多い。女性管理職の少なさ、出産・育児に関する制度運用の不備など、女性の社会進出が難しいといった話題がそうだ。その解消のため女性を保護するような制度を作ることは必要だと思う。しかしそれだけで男女平等が実現できるのだろうか。私には違和感があった。

先日東京へ行ったとき、初めて女性専用車両の存在を知った。男性専用車両がないことを不思議に思い調べてみると、その設置理由として、痴漢などの性犯罪や暴力から女性を保護するというのが挙げられていた。私はこの理由に違和感を持った。なぜなら、男性は痴漢などをする可能性が高いから乗せないというのは、女性は結婚出産で退職する可能性が高いから採用しない、というのと同じことのように思えたからだ。将来、私は地域に密着

した医師として働きたいという夢を持ち今はその夢の実現に向かって努力している。それなのに女性だからすぐ仕事をやめてしまうだろう、と言われるのはとても心外だ。男性も、男性だから性犯罪をするだろう、と言われるのは、とても不愉快だと思う。

では、どうすればよいのかと考えたとき、ふとランドセルを選んだ時のことを思い出した。黄色が良いと言い張る私に、最初は女の子は赤、と言っていた両親も最終的には「碧衣らしくて良いね。」と言ってくれ、幼いながらも自分が認められたようで嬉しかった。「男性らしさ」「女性らしさ」ではなく「その人らしさ」を大切にすれば、互いが尊重し合え、男女平等を実現することができるのではないだろうか。

自分の生活を振り返ってみると、無意識のうちに性別によって態度を変えていたこともあったように思う。そのような固定観念を捨て、まず自分から、すべての人を性別にとらわれず一人の人間としての「その人らしさ」を尊重し関わり合っていきたいと思う。

折から、東京医科大学の不正入試事件が大きなニュースとなったことから、今回の作文コンクールではこのニュースを題材とする作品が多く見られました。やはりこれから高校、大学と入学試験を控える中学生の皆さんには、自分にとっても身近な問題として男女平等や男女共同参画を考えるきっかけとなったようです。一方で、最優秀賞を受賞した吉越さんの作品を始めとして、主に女性の問題ととらえるのではなく、物事を性別で考えること自体を見直すべきだとの論点の作品も多く、男女共同参画についての理解がよりいっそう進んでいると、改めて実感されました。

最優秀作品を受賞された吉越 碧衣さん(片山学園中学校3年)に、受賞作品「真の男女平等を目指して」に込めた思いなどについて、お話をうかがいました。

interview



作文コンクールに応募しようと思ったきっかけは？

夏休みの課題をどうしようか考えていたときに、学校を通じてこの作文コンクールのことを知って、応募することにしました。

「真の男女平等を目指して」というテーマにした理由は？

学校でなにか必要な仕事があったときなど、それが力仕事だったら男子、手芸とか何かを作るときだと女子が呼ばれることが多かったのです。でも私はどちらかというと力仕事の方がかえって得意なくらいでしたので、どうして男か女かというだけで仕事を分けてしまうのだろうか？とっていました。そこでこのことをテーマとすることにしました。

「女性専用車両」の話が出てきますが、とても印象的だったのですか？

どの路線に乗った時だったかは覚えていませんが、富山には女性専用車両なんてないでしょう？(笑) 東京には女性専用の車両があるんだと、とても驚きました。



作文を発表される吉越さん

将来は医師を志望されているとのことですが、東京医科大学の問題をどう感じましたか？

試験の点数がいい人が必ずいい医師になるとは思いませんが、医師になるには多くの知識を習得しなければならないと思います。勝手に試験の点数を減点するなんて、本当にひどいと思いました。

自分でも無意識のうちに性別で態度を変えていたことは？

先ほど、力仕事の方が好きと言いましたが、ちょっと重いな？と思った時には、男子に頼んだりしていました。(笑)

固定観念を捨てるには、どうしたらよいと思いますか？

男、女といった性別で分けるのではなく、その人に向いてるかとか、得意なことなど、個性や能力といった「その人らしさ」を大切にしたいと思います。



作文コンクールの表彰式で吉越さんによる朗読が始まるや否や、その説得力に満ちた力強い言葉のひとつひとつに、頷きながら引き込まれるように熱心に聞き入っている観客の姿がとても印象的でした。そして、朗読が終わったときには、登壇したとき以上の大きな拍手が一斉に沸き上がりました。

男女共同参画とやま 市民フェスティバル2018

笑顔でつなぐ地域コミュニケーション

平成30年10月28日、男女共同参画による地域社会づくりを考えるイベント「男女共同参画とやま 市民フェスティバル2018」が、富山県民小劇場オルビス(富山駅前 マリエとやま7階)で開催されました。

イベントでは、まず「平成30年度 男女共同参画社会づくり作文コンクール」受賞者(最優秀賞、優秀賞)の表彰式が行われました。



表彰式



受賞されたみなさん

続いて、落語家の林家木久蔵さんを講師として、「笑顔でつなぐ木久蔵流・地域コミュニケーション」と題した講演と、落語が披露されました。



講演の後半には、木久蔵さんのお弟子さんである林家木りんさんも加わり、木りんさんの父親が元大関清国で、木りん

さん自身は「謎かけ」がお得意ということで、「大相撲とかけて～」といったお題で会場を盛り上げました。

最後は木久蔵さんから「初天神」という題目の落語が披露され、団子から垂れる蜜を舐める芸の見事さに、客席からは感動の声とともに大きな拍手が巻き起こって、幕が下りました。



男女平等意識を育む 小学生向け啓発リーフレット 「自分らしく生きる」をリニューアル

市では、小学3～6年生向けに、男女平等意識を育む啓発リーフレット「自分らしく生きる」を作成し、授業などで活用しています。

このリーフレットが前回の改訂から5年を迎え、現在の男女共同参画を取り巻く状況も大きく変化していることから、昨年8月から約半年をかけて、小学校教諭5人で構成する編集委員会において、内容の見直しを行いました。

そこで、今回は編集委員会委員長である富山市立八尾小学校の米田教頭に、今回の改訂についてお話を伺いました。



富山市立八尾小学校
米田教頭

●学校教育の場で感じる男女平等意識とは？

いつ頃からか教室のロッカーには、赤や黒だけではなくピンク・紫・青・水色等、様々な色のランドセルが並ぶようになりました。また、児童会長や運動会の応援団長等の役割を女の子が担ったり、料理や茶道クラブに男の子が所属したりすることも、ごく普通の光景となりました。それは、「男だから…」「女だから…」という古い固定観念に縛られることなく、自分の好きな物ややりたいことを自由を選択する子どもの姿であり、男女平等意識が着実に新しい世代へ浸透していることを実感しています。

それでも、小学3年生の頃から男女別々のグループで遊ぶことが増え、高学年になると一層その傾向は強く、男女を意識した行動が見られるようになります。



啓発リーフレット「自分らしく生きる」



編集委員会の様子

啓発リーフレットの改訂に参加された編集委員の皆さん

- 米田貴子 教頭(八尾小学校)
- 谷 有記 教諭(速星小学校)
- 水野大造 教諭(山室中部小学校)
- 舟田瑞穂 教諭(堀川南小学校)
- 河端秋人 教諭(芝園小学校)

●改訂のポイントは？

前回の改訂から5年が経過し、女性の社会進出や男性の家事・育児への参加が叫ばれる中、子どもたちにとって男女平等の考え方は当たり前の価値観になりつつあります。そこで、3年生・4年生・5年生については、前回の冊子のねらいを踏襲しつつ、場面設定やイラスト、文章表現を子どもたちの生活経験や意識に合うように変更し、共感できる内容にしました。また、話合いの時間を十分確保できるように、チェックリストの数や記述の分量にも配慮しました。

6年生については、内容を一新しました。男女間格差のある日本の現状について話合い、富山市の男女共同参画の取組を知ることで、自分たちが格差のない明るい社会をつくってほしいと願う子どもの姿を期待します。

●子どもたちへ願うことは？

学校では、学習や生活の中で互いのよさや個性を認め合い、自分の力をのびのびと発揮したり男女関係なくだれとでも協力することを通して、男女平等意識を育んでいます。

しかし、現実社会では「待機児童問題」「大相撲での土俵の女人禁制騒動」「医学部入試女性差別」等、女性の社会進出や活躍を阻むようなことがあったり、専業主夫を珍しい目で見たりするなど、まだまだ男女平等とはいえないのが日本の実情ではないでしょうか。

だからこそ、子どもたちには、性別に関係なく自分の個性や能力を生かして『自分らしく生きる』ことや、男も女も同じ社会の一員として互いに尊重しながら、助け合い協力していくことを大事にして、一人一人が輝く社会を築いてほしいと願っています。

家事ができる男性を目指す!

家事ダン

講座

KAJI * DAN



マスターすれば、家事も分担できる!

「家事ダン」とは?

イクメンに並び最近よく耳にする、積極的に家事をする男性の「家事ダン」。富山市では、女性活躍の環境づくりを目的として、男性を対象に、掃除や洗濯、料理など、毎日の家事を楽しくサラッとこなせる裏技を学ぶ「家事ダン」講座(全6回)を開催しています。今年度は20~70歳代の男性34名が参加し、すべての講座を受講した20名の方に、「家事ダン」マスターの称号が授与されました。



2018年度に開催された講座

- 第1回** 8月
すぐ取り出せる、すぐ片づく片づけで暮らしが変わる
講師：山谷 理絵 [整理収納アドバイザー]
- 第2回** 9月
いつものメニューで違い際立つプロの技で極める! 男の究極料理
講師：田中 裕信 [キッチン花水木]
- 第3回** 10月
コツをつかめば楽しくなるプロから学ぶ 洗濯とアイロン
講師：中島 勇 [株式会社ヤングドライ執行役員常務取締役]
- 第4回** 11月
一気に3品も夢じゃない簡単! 時短! 手軽に美味しい夕食メニュー
講師：山崎 亮子 [料理家・管理栄養士]
- 第5回** 12月
タスクと順序を洗い出せサクサクすすむ 年末の掃除術
講師：浮田 美紀子 [Kuraduce株式会社代表]
- 第6回** 1月
家族ともっとうまく会話術 男性のための コミュニケーション講座
講師：稲場 真由美 [株式会社ジェイ・バン代表取締役]



家事ダンマスターに認定されたみなさん、おめでとう!

「家事ダン」講座参加者に生の声をお聞きしました。



Q 普段の家事の分担はどうされていますか?

A 妻は仕事の帰りが遅いため、料理は自分でご飯を炊く程度はしています。また、朝に洗濯などもしています。

Q 家事の分担についてどのように感じていますか?

A 特に違和感はありません。



Q この講座を受講したきっかけや動機を教えてください。

A 昨年の講座にも応募したのですが、残念ながら参加できなくて…。動機としては、家事を要領よくやりたいと思ったからです。



みなさん、家事のスキルアップを目指して頑張っています



ごちなくとも一生懸命!

Q この講座に参加してよかったことは何ですか?

A 私以外にも多くの男性が参加していますが、例えば料理の講座の時に、率先して調理される方や家庭で実践するために積極的に質問をされる方など、モチベーションが高い方が非常に多くて、皆さんと一緒に参加したことで、自分の意識も向上したと感じています。

Q この講座に参加して楽しかったことは何ですか?

A 料理をすることが楽しかったですね。手間がかからず品数を多くするといった、要領よく料理することを教えていただきました。



おいしいな盛り付け!

Q この講座に参加して変わったことは何ですか?

A 教わったことを家庭で実践しました。料理であれば、これまでご飯を炊いたり、みそ汁の出汁とりなどをする程度でしたが、おかずを作ってみたりなど。家族からはおいしいと言ってもらえるなど、おおむね好評でした。



真剣な眼差しでプロの技を学んでいます

Q これから取り組んでみたいことはありますか?

A 家事ダンの講座で掃除や片づけについて教わったので、実践していきたいですね。

Q 今後はどのように家事のやり方を変えていこうと思いますか?

A これまでよりも要領よく家事に取り組むことで、もっと他にできることを増やしていきたいと考えています。

Q ほかに家事について教えてほしいことはありますか?

A 調理する際の食材の切り方や皮のむき方、お味噌汁を作るときの出汁のとり方など料理の基本も学べればいかなと思いました。



みなさん、楽しそうに受講されていますね!

男女共同参画推進センターからのお知らせ

男女共同参画
サテライト講座を
開催しました!

男女共同参画サテライト講座

健康長寿が一番! 変えよう悪い生活習慣

■日時:平成30年12月16日(日)13:30~15:00 ■場所:奥田公民館(奥田新町3-1)

■講師:森井 勇さん(健康生きがいづくりアドバイザー)



「健康長寿」をテーマにした男女共同参画サテライト講座を開催しました。健康生きがいづくりアドバイザーの森井勇氏が、老化のスピードを抑え、病を気にせず、健康で長生きするためのヒントをお話してくださいました。



男女共同参画講座を
開催しています

男女共同参画に関するテーマで、さまざまな学習啓発講座を無料で開催しています。詳細は広報とやまに随時掲載します。どうぞお気軽にご参加ください。

各種相談を行っています

相談日程は、毎月、広報とやま20日号で案内しています。

●DV(配偶者・パートナーからの暴力)相談

DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者や恋人など親密な関係にある人からの暴力のことを言います。夫婦・パートナー間の悩みなど、ひとりで悩まず、ご相談ください。

●弁護士による夫婦・男女に関する法律相談

●女性臨床心理士による夫婦・男女に関する悩み相談

ひとりで
悩まないで



●DV相談 専用電話 Tel.076-433-2210

※来所相談については、電話予約をお願いします。

●お問い合わせ

富山市男女共同参画推進センター

CiC3階:新富町一丁目 Tel.076-433-1760

「あいのかぜ」の編集委員を募集します

●募集資格 市内在住の20歳以上の方で、2019・2020年度の2年間、編集委員として活動し、平日の日中に開催される編集会議に常時参加できる方
(「あいのかぜ」は年1回発行。編集会議は年6回程度)

●募集人数 3人(面接により選考) ●任期 委嘱した日から2021年3月31日まで

●仕事内容 企画、取材、原稿作成、レイアウトなど

●応募方法 4月19日(金)までに所定の応募用紙に必要事項を記入し、直接またはFAX、郵送、Eメールで、男女参画・市民協働課へ。

※応募用紙は、男女参画・市民協働課、男女共同参画推進センターにあります。(Eメールで応募の方は応募用紙のデータを送信しますので、連絡してください。)

●お問い合わせ

男女参画・市民協働課

〒930-8510 新桜町7-38:市役所3階
Tel.076-443-2051 Fax.076-443-2176
E-mail: danjo-01@city.toyama.lg.jp



編集後記

国際結婚されたご夫婦の取材を通して、これぞ男女共同参画の原点だと、感心させられました。日本では、男は外で仕事、女は内て家事といったスタイルが、長い年月の習慣になっていました。それが、すっかり崩されたとはいえ、根底に残っています。本当の意味での、男と女が支え合って生きる形態の樹立を願っています。2年間本当にありがとうございました。



(清田編集委員)

ムッシュ・ジーのランボ夫妻の取材をしました。甘い香りの中、色とりどりのたくさんさんのマカロンが並ぶ店内でお話を伺いました。ご夫婦は爽やかに仲睦まじくお互いに認め合う素敵なパートナーと感じました。話の途中で次女の眞愛ちゃんを抱っこしながら答えてくださったジョスランさんがとても印象的でした。あいのかぜ編集委員2年間ありがとうございました。



(坪田編集委員)

市民フェスティバルで講演された林家木久蔵さん。父親の話をするときは息子の顔、お弟子さんと話をするときは師匠の顔。ほかに学生や球児の顔など。さすが噺家さん、まるで七変化のように表情豊かに話されました。そして見事な芸を見せた圧巻の落語。落語の魅力を改めて教えていただきました。富山には、てるてる亭など落語を身近に感じる場所があるので、これからは足繁く通ってみたいと思います。2年間どうもありがとうございました。



(中村編集委員)

この号の発刊に際しまして、多くの方々にご協力いただき、ありがとうございました。

■編集・発行

2019年3月発行

富山市市民生活部
男女参画・市民協働課

〒930-8510 富山市新桜町7-38
Tel.076-443-2051 Fax.076-443-2176
E-mail: danjo-01@city.toyama.lg.jp

あいのかぜ

“あいのかぜ”は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人一人が男女共同参画社会に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民3人からなる編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。